

第47回ESRI - 経済政策フォーラム
(共催：統計委員会)
シンポジウム「震災復興と統計 統計の果たすべき役割とは？」

1. 開催趣旨

3月11日に発生した東日本大震災は、各地に甚大な被害を与えたのみならず、原子力発電所の機能不全に伴い、周辺地域へ深刻な影響をもたらしています。現在も多くの方々が避難生活を送っており、また、津波による塩害、放射能による出荷制限、さらには風評被害等によって、観光業、農業や漁業等様々な産業分野で震災被害は拡大しています。本震災による国民生活や経済への影響を最小限にするためにも、迅速な復興対策の実行が求められています。

このような時にこそ、正確な情報に基づく冷静な判断が重要であり、公的統計は、社会の情報基盤として重要な役割を果たすことが求められています。また、公的統計は、本震災前後の日本の姿を包括的に把握する客観的かつ定量的なエビデンスであることから、復興対策の立案などの局面において、その重要性は一層高まるものと考えられます。

一方で、本震災により、統計調査が通常とは異なる特別の対応を取らざるを得ない事態に直面していることが課題となっています。例えば、被災地の地方統計組織においては、各種の被災者支援業務に全力を挙げているところであり、また、住民感情等への配慮もあって、各種統計調査の中には実施を見合わせざるを得ないものが出ている状態となっています。

このような公的統計に求められている役割や調査環境を取り巻く厳しい状況を踏まえるとともに、被災地でご尽力されている統計調査員の方々への激励の意味も込めて、震災復興における公的統計の役割について考えるシンポジウムを開催することにいたしました。本シンポジウムでは、各界有識者から、震災被害の状況把握に関する公的統計を利用した推計方法や分析上の課題を御紹介いただくとともに、今後の震災復興対策において公的統計がどのような役割を果たし得るのかについて御議論いただきます。

2. 開催日時

平成23年7月21日(木) 14:00-17:00

3. 会場

航空会館 7階 大ホール (東京都港区新橋1-18-1)

JR新橋駅 日比谷口 徒歩5~6分

地下鉄新橋駅 (銀座線・都営浅草線) 7番出口 徒歩5~6分

地下鉄内幸町駅 (都営三田線) A2出口

4. プログラム

(1) 開会挨拶

(2) 基調講演 (各20分)

基調講演－1: 「過去の自然災害の教訓をどう生かすか？」

～東日本大震災後の生活再建～

澤田康幸 (東京大学大学院経済学研究科准教授)

基調講演－2: 「東日本大震災資本ストック被害金額推計について

～エリア別(県別/内陸・沿岸別)に推計～

寺崎友芳 (日本政策投資銀行地域企画部)

<休憩 (15分)>

(3) パネルディスカッション (90分程度)

「公的統計の役割－統計を被災地の支援と復興にどう役立てるか」

パネリスト

荒井信幸 (和歌山大学経済学部教授)

佐藤主光 (一橋大学大学院経済学研究科教授)

澤田康幸 (前述)

永瀬伸子 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)

モデレーター

樋口美雄 (統計委員会委員長 / 慶應義塾大学商学部教授)

(4) 会場との質疑応答 (20分)

(5) シンポジウム総括 樋口美雄 (前述) (10分)

(6) 閉会

5. その他

- ・フォーラム後は、議事録及び配布資料をホームページ等で公表する予定。